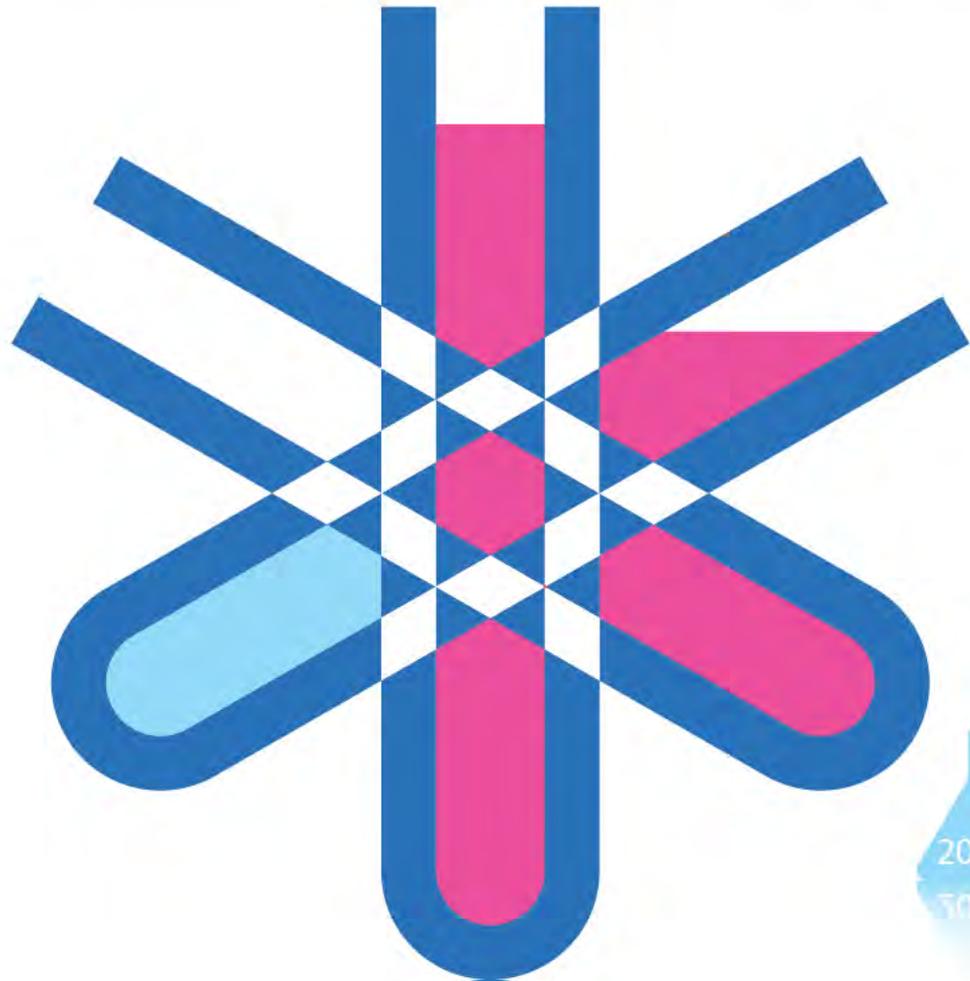


検査情報月報



横浜市衛生研究所

平成29年1月号 目次

【トピックス】

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果 ―平成28年5～10月―	1
-------------------------------------	---

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 12月	4
--------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	8
---------------------	---

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果

－平成28年5～10月－

医動物担当では、健康福祉局蚊媒介感染症ウイルスサーベイランス事業の一環として主に市内公園等において蚊成虫生息状況調査を行っています。蚊媒介感染症は、デング熱、ジカ熱、ウエストナイル熱、チクングニア熱、日本脳炎などがあり、それぞれ主要媒介蚊が異なります。またデング熱は、平成26年8月に、約70年ぶりとなる国内発生がありました。そのため、感染症発生時対策として、平常時より地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておくことが必要です。

平成28年は電池式ライトトラップ(CDC型:ドライアイス併用、写真1)を用いた蚊成虫捕獲調査を市内25か所(各10回、2か所のみ各12回)で行いました(図1、表1)。ライトトラップの設置回収は、各区福祉保健センター、神奈川県ペストコントロール協会、衛生研究所が行いました。また、山下公園(中区)の6地点において、ヤブカ属の捕獲を目的として捕虫網を用いた人囮法ひとおとり(8分間スウィーピング法、写真2)を全10回行いました。

捕獲された蚊は調査場所ごとに種類を同定し、雌成虫については、ウイルス検査担当に供出しました。今回は、市内における蚊成虫生息状況調査結果について報告します。



写真1 CDC型ライトトラップ



写真2 人囮法
(スウィーピング法)



図1 蚊成虫捕獲調査地点

表1 蚊成虫捕獲調査地点

区	調査地点	区	調査地点	区	調査地点
鶴見	大黒中央公園(A)	中	シンボルタワー(J)	緑	北八朔公園(S)
	馬場花木園(B)	南	蒔田の森公園(K)	青葉	桜台公園(T)
神奈川	三ツ沢公園(C)	港南	久良岐公園(L)	都筑	都筑中央公園(U)
西	掃部山公園(D)		日野公園墓地(M)	戸塚	舞岡公園(V)
	臨港パーク(E)	保土ヶ谷	陣ヶ下溪谷公園(N)	栄	本郷ふじやま公園(W)
中	山下公園(F)	旭	こども自然公園(O)	泉	泉中央公園(X)
	横浜公園(G)	磯子	坪呑公園(P)	瀬谷	二ツ橋南公園(Y)
	港の見える丘公園(H)	金沢	海の公園(Q)		
	根岸森林公園(I)	港北	大倉山公園(R)		

〈ライトトラップ法による蚊の種類と個体数〉

ライトトラップ法により捕獲された蚊の種類と個体数を表2に示しました。

捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、6属11種10,411個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ8,290個体(79.6%)でした。次いで、アカイエカ群が1,441個体(13.8%)、ヤマトヤブカが226個体(2.2%)、キンバラナガハシカが224個体(2.2%)捕獲されました。

なお、ヒトスジシマカのデングウイルス、ジカウイルス、チクングニアウイルス遺伝子検査は、全て陰性でした。

その他の蚊媒介感染症ウイルス検査結果については、衛生研究所ホームページに掲載する予定です。



ヒトスジシマカ 雌

表2 蚊の種類と個体数(ライトトラップ法:2か所×12回 23か所×10回)

属	種	個体数			
		雌	雄	合計	(%)
イエカ属	アカイエカ群*1	1,426	15	1,441	(13.8)
	コガタアカイエカ	105	0	105	(1.0)
	カラツイエカ	22	0	22	(0.2)
	トラフカクイカ	2	0	2	(0.02)
	クシヒゲカ亜属	3	0	3	(0.03)
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	7,118	1,172	8,290	(79.6)
	ヤマトヤブカ	225	1	226	(2.2)
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	28	0	28	(0.3)
ナガハシカ属	キンバラナガハシカ	200	24	224	(2.2)
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	23	1	24	(0.2)
チビカ属	フタクロホシチビカ	0	2	2	(0.02)
その他*2		43	1	44	(0.4)
合計		9,195	1,216	10,411	

*1: アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネッタイエカの3亜種が含まれる。3亜種は実体顕微鏡下での外部形態による同定が容易ではないため、多くの調査で、アカイエカ群として扱われている。

*2: 破損の激しいもの

〈ライトトラップ法による調査地点別の蚊捕獲数〉

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、大黒中央公園(鶴見区)で1,266個体でした。次いで、掃部山公園(西区)が1,265個体、臨港パーク(西区)が857個体、馬場花木園(鶴見区)が765個体、三ツ沢公園が658個体でした。また横浜港に近い調査場所である、大黒中央公園(鶴見区)、中区の山下公園・シンボルタワーはアカイエカ群の捕獲率が高く、その他の調査地点はヒトスジシマカが多く捕獲されていました。

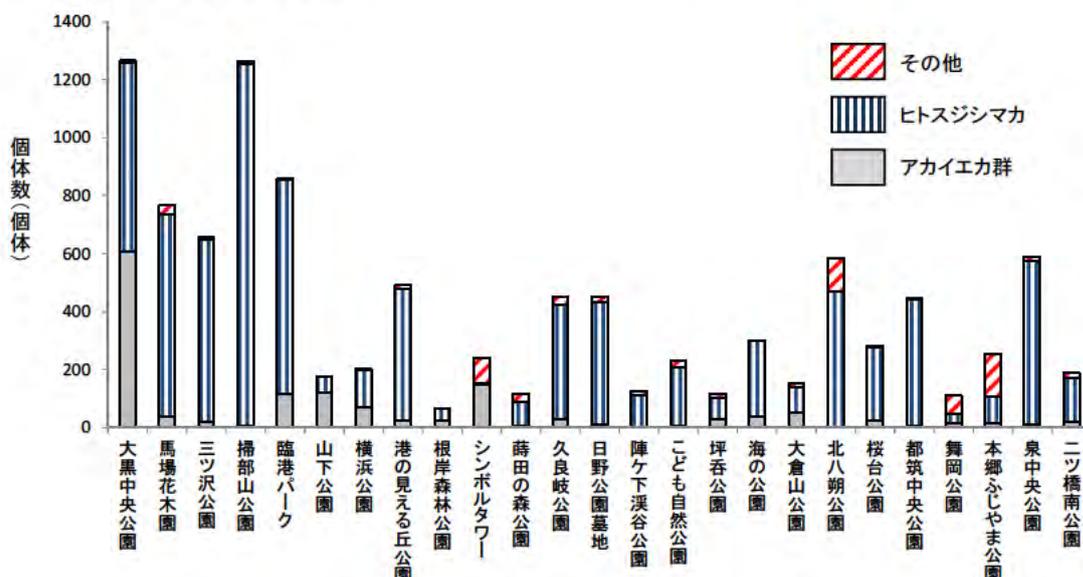


図2 調査地点別の蚊捕獲数

ひとひとり
〈人囮法によるヒトスジシマカ個体数: 山下公園〉

山下公園内の6地点において、人囮法による蚊成虫調査を10回行いました。調査の結果、ヒトスジシマカの雌成虫は114個体、雄成虫は33個体、合計147個体捕獲されました。

なお、デングウイルス、ジカウイルス、チクングニアウイルス遺伝子検査は、全て陰性でした。

ひとひとり
〈人囮法によるヒトスジシマカ季節消長: 山下公園〉

ひとひとり
人囮法により捕獲されたヒトスジシマカ成虫の季節消長(6地点の合計)を図3に示しました。

ヒトスジシマカは調査期間を通じて捕獲がみられました。各調査回の捕獲数は、6月から8月は7個体以下と少数でしたが、9月より増加し、10/7に55個体と最も多くなりました。

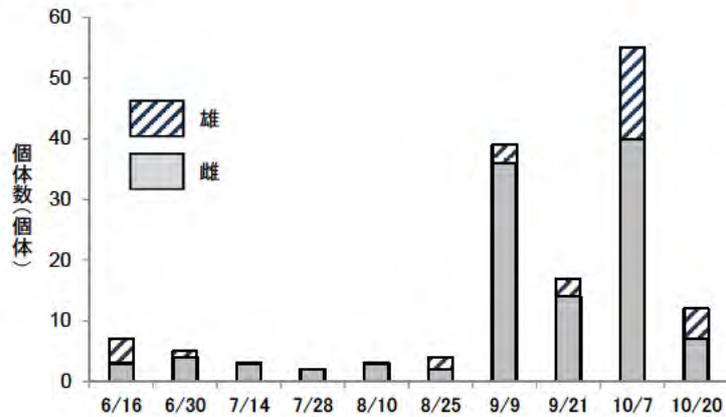


図3 山下公園のヒトスジシマカ季節消長(人囮法:6か所合計)



ヒトスジシマカって、冬はどうしているの???



ヒトスジシマカは、デング熱やジカ熱などを媒介する蚊です。平成28年の横浜市内の蚊成虫捕獲調査では、全体の約80%を占めています。

さて、冬の間ヒトスジシマカはどうしているのでしょうか?

蚊の越冬の仕方は、種類によって異なります。ヒトスジシマカの成虫は、秋以降寒くなると死んでしまい、卵の状態越冬します。秋に産み付けられた卵は、う化せず、休眠卵となり、じっと春を待ちます。ヒトスジシマカの卵は乾燥に強いので、発生源の水がなくなっても、再び水が溜まれば、う化することができます。ですから、冬の寒さや乾燥にも耐えられるのです。

蚊の卵だよ!!
冬は卵で過ごすよ

ブルーシート

植木鉢のお皿

空き容器

古タイヤ

春になる前にお片付けしましょう!!

横浜市感染症発生動向調査報告 12月

《今月のトピックス》

- 例年より早い時期に感染性胃腸炎流行警報が発令されました。
- 例年より早い時期にインフルエンザの流行期に入りました。
- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が依然として続いています。

◇ 全数把握の対象

〈12月期に報告された全数把握疾患〉

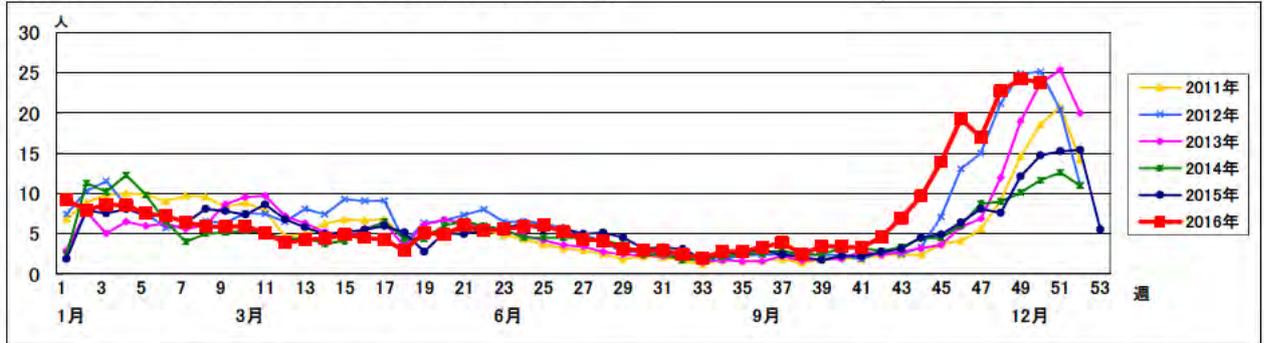
腸管出血性大腸菌感染症	5件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
A型肝炎	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
ジカウイルス感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	6件
デング熱	1件	ジアルジア症	1件
レジオネラ症	7件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	10件	侵襲性肺炎球菌感染症	14件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件	梅毒	11件
急性脳炎	1件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 共通食品の喫食によるO157の報告が4件(うち1件はHUS、1件は無症状病原体保有者)、O111の報告(無症状病原体保有者)が1件でした。
- 2 A型肝炎: 2件の報告があり、1件は国内、1件は国内またはチリでの感染が推定されています。
- 3 ジカウイルス感染症: 1件の報告があり、キューバでの蚊からの感染が推定されています。
- 4 デング熱: 1件の報告があり、フィリピンでの蚊からの感染が推定されています。
- 5 レジオネラ症: 7件の肺炎型の報告がありました。
- 6 アメーバ赤痢: 10件の報告があり、うち1件は国内での異性間の性的接触、3件は経口感染(2件は国内、1件は東南アジア)が推定され、6件は感染経路等不明でした。
- 7 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 8件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 8 急性脳炎: 1件の幼児の報告があり、病原体は不明でした。
- 9 クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJDの報告が1件ありました。
- 10 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 2件が報告され、うち1件がB群、1件がG群でした。
- 11 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): いずれも性的接触によるもので、AIDSが2件(同性間が1件、異性間が1件)、無症状病原体保有者の報告が4件(同性間2件、異性間1件、性別不詳1件)ありました。
- 12 ジアルジア症: 1件の報告があり、感染経路および感染地域は不明です。
- 13 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 1件の報告があり、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 14 侵襲性肺炎球菌感染症: 14件の報告があり、うち0歳児および2歳児についてはワクチン接種歴が確認されました。12件(40～80歳代)では3件がワクチン接種歴を確認できましたが、9件についてはワクチン接種歴を確認できませんでした。
- 15 梅毒: 11件の報告(無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、早期顕症梅毒Ⅱ期6件)がありました。いずれも国内での感染で、男性9件、女性2件でした。感染経路は、すべて異性間性的接触でした。
- 16 バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 1件の報告があり、感染経路等不明です。

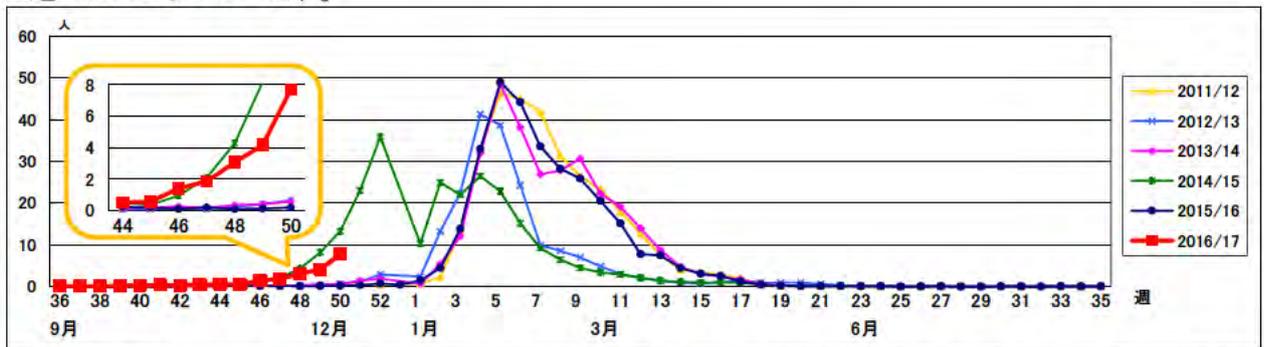
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第46週	11月14日～11月20日
第47週	11月21日～11月27日
第48週	11月28日～12月4日
第49週	12月5日～12月11日
第50週	12月12日～12月18日

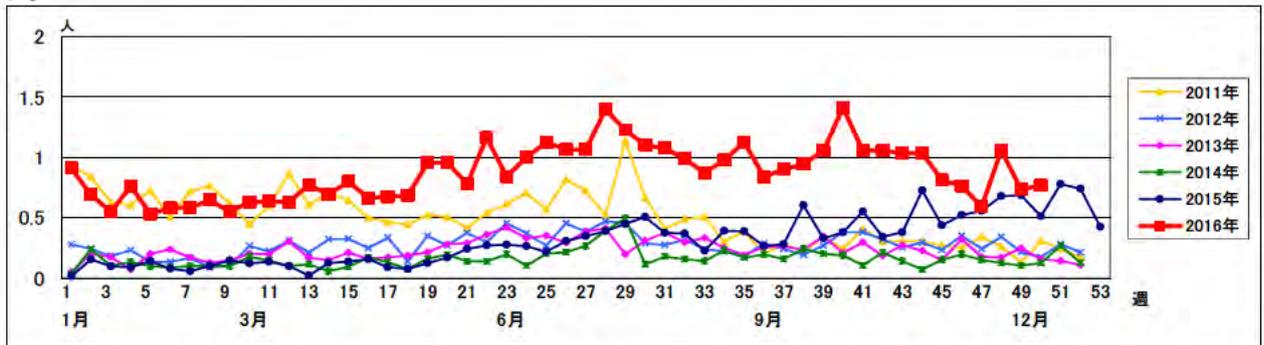
- 1 感染性胃腸炎：第48週で定点あたり22.73と、例年に比べて早く警報発令基準値を上回りました。保育園、幼稚園等における集団発生も多く報告されており、ノロウイルスGⅡが検出されています。第50週は23.78と依然として報告数の高い状態で推移しています。



- 2 インフルエンザ：第46週で定点あたり1.39となり、例年に比べて早く流行開始の目安を上回りました。第50週で7.71となっています。



- 3 流行性耳下腺炎：第50週で定点あたり0.77と、例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



- 4 性感染症：11月は、性器クラミジア感染症は男性が27件、女性が6件でした。性器ヘルペス感染症は男性が9件、女性が6件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が11件、女性が1件でした。
- 5 基幹定点週報：マイコプラズマ肺炎は第46週1.00、第47週1.67、第48週1.75、第49週0.50、第50週1.75と報告されています。インフルエンザによる入院は第46週0.33、第47週0.67、第48週1.50、第49週0.75、第50週2.75と報告されています。無菌性髄膜炎は第46週0.00、第47週0.00、第48週0.25、第49週0.00、第50週0.00と報告されています。感染性胃腸炎（ロタウイルスによるもの）は第46週0.00、第47週0.00、第48週0.00、第49週0.25、第50週0.00と報告されています。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 基幹定点月報：11月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が5件で、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点44件、内科定点13件、眼科定点2件、基幹定点6件で、定点外医療機関からは3件でした。

1月10日現在、ウイルス分離36株と各種ウイルス遺伝子16件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(12月)

分離・検出ウイルス	主な臨床症状	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ ^{*1}	アデノ感染症 ^{*2}	胃腸炎	無菌性髄膜炎	ウイルス性肺炎
インフルエンザ AH3型				30 1				1
インフルエンザ B型ビクトリア系統				3				
アデノ 2型					1			
アデノ 4型		1						
パラインフルエンザ 1型				1				
パラインフルエンザ 2型		1	1					
RS		2						
ヒトメタニューモ				1				
ヒトコロナ ^{*3}		2	1	1		1		1
ボカ		1						
ライノ		1						
エコー 6型							1	
合計		1 7	0 2	33 4	1 0	0 1	0 1	1 1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む、*3:HCoV-229E or NL63、HCoV-OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

12月の感染性胃腸炎は、小児科定点から1件、基幹定点から7件、その他が2件で、腸管毒素原性大腸菌(O6:H16,LT&ST、O6:H16,ST)が2件、腸管出血性大腸菌(O26:H+,VT1)と腸管病原性大腸菌(O169:H-,aggR)および*Campylobacter jejuni*が1件ずつ検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から2件、基幹定点から4件、その他からが16件でした。その他のG群溶血性レンサ球菌の3株は劇症型溶連菌感染症の患者から検出されました。バンコマイシン耐性腸球菌はvanB遺伝子保有の*Enterococcus faecalis*でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(12月)

感染性胃腸炎								
菌種名	検査年月		12月			2016年1月～12月		
	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	件数		1	7	2	5	112	93
赤痢菌						1	2	
腸管病原性大腸菌			1			2		
腸管出血性大腸菌					1	8	67	
腸管毒素原性大腸菌			2			4		
腸管凝集性大腸菌						2		
チフス菌						2		
サルモネラ						3	25	
カンピロバクター					1		3	
黄色ブドウ球菌						1		
NAGビブリオ							1	
不検出			1	4	0	2	67	
その他の感染症								
菌種名	検査年月		12月			2016年1月～12月		
	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	件数		2	4	16	37	52	462
A群溶血性レンサ球菌	T1					6	3	
	T3					1		
	T4					2		
	T6					1		
	T12					3	1	
	T B3264					1	10	
	型別不能		2			16	2	
B群溶血性レンサ球菌							3	
G群溶血性レンサ球菌					3	3	9	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						4	1	
バンコマイシン耐性腸球菌					1	1	25	
レジオネラ属菌						2	6	
インフルエンザ菌					1		7	
肺炎球菌					1	6	42	
黄色ブドウ球菌						1		
結核菌							244	
百日咳菌				1		3		
ボツリヌス菌							1	
その他				3	10		19	
不検出			0	0	0	6	14	

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成28年12月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成28年12月の総アクセス数は、140,729件でした。前月に比べ約11%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*181.1%、保健情報6.1%、食品衛生2.5%、検査情報月報1.5%、生活環境衛生1.3%、薬事0.4%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

12月のアクセス順位(表1)を見ると、インフルエンザや感染性胃腸炎の項目が複数入っています。

1位は「横浜市感染症情報センター」で、2位には、7月以降上位に入っている「大麻(マリファナ)について」となっています。

3位は「旋毛虫感染症(トリヒナ症)について」で、12月下旬に発生した、クマの肉が原因の食中毒の報道を受けて、上位に入ったと思われます。

表1 平成28年12月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センター	8,579
2	大麻(マリファナ)について	5,538
3	旋毛虫感染症(トリヒナ症)について	4,448
4	横浜市インフルエンザ流行情報4号	4,271
5	横浜市インフルエンザ流行情報3号	4,052
6	衛生研究所トップページ	3,812
7	感染性胃腸炎の発生状況(2016年12月8日)	3,341
8	疾患別情報	3,153
9	横浜市インフルエンザ流行情報2号	3,060
10	感染性胃腸炎の発生状況(2016年12月15日)	3,040

データ提供: 市民局広報課

「横浜市感染症情報センター」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「旋毛虫感染症(トリヒナ症)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/trichinella1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成28年12月の問い合わせは、3件でした(表2)。

表2 平成28年12月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
取材の申込みについて	1	感染症・疫学情報課
サイトリンクの件について	1	感染症・疫学情報課
人口動態統計について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事

平成28年12月に追加・更新した主な記事は、21件でした(表3)。

表3 平成28年12月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
12月 1日	横浜市インフルエンザ流行情報2号	掲載
12月 1日	スペインのこどもの定期予防接種について	更新
12月 2日	スイス・リヒテンシュタインのこどもの定期予防接種について	更新
12月 8日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月 8日	横浜市インフルエンザ流行情報3号	掲載
12月 8日	オーストリアのこどもの定期予防接種について	更新
12月 8日	フィンランドのこどもの定期予防接種について	更新
12月12日	ポーランドのこどもの定期予防接種について	更新
12月13日	アイスランドのこどもの定期予防接種について	更新
12月15日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月15日	横浜市インフルエンザ流行情報4号	掲載
12月15日	アイルランドのこどもの定期予防接種について	更新
12月16日	ハンガリーのこどもの定期予防接種について	更新
12月21日	ノルウェーのこどもの定期予防接種について	更新
12月22日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月22日	横浜市インフルエンザ流行情報5号	掲載
12月26日	アメリカ合衆国のこどもの定期予防接種について	更新
12月27日	感染症に気をつけよう(1月号)	掲載
12月27日	病原体定点からのウイルス検出状況(平成28年)	更新
12月28日	横浜市インフルエンザ流行情報6号	掲載
12月28日	モルドバのこどもの定期予防接種について	更新

【 感染症・疫学情報課 】